



南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2023(令和5)年9月28日 第39号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

報恩講—「さあ、念仏申せ!!」という呼びかけ

■報恩講が近づくと…

報恩講と聞いて頭に浮かぶのは父親だ。父親の報恩講に対する意気込みは、子どもの頃の私でも分かった。「亡くなられるひと月前、三智丸さん、車いすで御坊の報恩講にお参りされてなあ、…」と、先輩方から聞かせてもらった。参らずにはおれなかったのだろう。一体、何がそこまでさせたのか。本人に聞くことも出来ないのだから、分らないままだった。とにかく、そんな意気込んでいる父親を見ていたので、報恩講が近づいてくると何故かワクワクしていた。親鸞聖人って誰?というくらい小さいころから、報恩講は楽しみだった。大勢の大人が寺に集まって掃除をしたり、お齋をやわたりする姿を見ながら、打敷をかけた、五具足にした、御絵伝を掛けたり、ボコボコに叱られながら準備の手伝いをした。

そんな自坊の報恩講には挿鞋直しでデビューした。時間にして十数秒。その間、参拝席からは、「あ〜れ、かわいい〜」「お父さんにそっくりやな〜」などの言葉とともに、歓声が止まなかった。私や弟が挿鞋直しに出るタイミングが、その御座一番の盛り上がるポイントだったが、年を追う毎にその歓声は小さくなっていった。

そんな報恩講が楽しみだった理由は、大根汁。今になって思うと、お勤めよりも大根汁がメインと言っていいくらい、今でも大好きな味だ。何より大勢の参り衆と一緒に齋をいただく、あの時間が好きだったのかもしれない。

御坊の報恩講では、高山2組門徒会の方々が大根汁を作ってくださっており、名物となっている。コロナでしばらくお休みしたが、今年は復

活するとのこと。うれしいな。材料は大根、味噌、出汁のみ。どこにでもある大根が、これほど美味くなるのかと驚いた。



秋聲寺報恩講お齋風景

■おみがき—念仏申されてきた歴史の香り

報恩講前にはおみがきが行われる。奉仕して下さる方々は、普段触れることのない大きさの仏具を目の前にして、熱心におみがきをされている。鶴の羽や蓮軸、華瓶などの細かなデコボコがあるものは大変だ。研磨剤を塗るまではいいが、それが詰まってしまう、余計にくすんでしまう。それでも諦めず磨き続けて、やっと輝きが蘇る。真剣にやれば、相当な力仕事である。

自坊でのおみがきの際に、参加いただいた同行に声をかけられた。その方は左手で香炉の蓋を持ちながら、こう言った。「住職!ここの汚れ落ちんのやけど、どうすりゃいいんや?」。まさか、とは思ったが、やはり。その方は蓋の裏に付いたお香の煤に手こずっておられた。1時間ほどでは到底磨ききれるものではないので、「それは絶対落ちん汚れやで、そのまんまでいいよ」と答えてその場は過ぎた。おみがきが終わり仏具を戻す時、その蓋の裏が気になった。見てみると

煤と油がこびり付き、黒くなっている。お世辞にもキレイと言える状態ではない。「外側がどれだけ輝いていようと、内側の黒く汚いところは無くならんぞ」と言うことか。次に匂いを嗅いでみた。とても柔らかな香りがする。見た目は悪いがとてもいい香りだった。同時に、これまでお香が焚かれてきた場面が頭の中を駆け巡る。毎年の報恩講、ご回壇、法事など数えきれないほどの御座が勤まり、そしてその全ての御座でお念仏が申されてきたのだろう。内なる汚れは、それに気がつかされてきた念仏の香りある歴史だった。報恩講にお参りし合掌されているお姿、お念仏されているお姿、そういったお姿のひとつひとつが今、私にお念仏を申させ、報恩講に参らせているのだ。父親が御坊報恩講に参らずにおれなかったのも、そういった方々のお姿があったからではないか。



煤けた香炉の蓋の裏側

前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり、と。

『教行信証 後序』(『安楽集』)

あの香炉の蓋だけではなく、お内陣のお荘厳、そこにお参りし、お念仏申されてきた方のお姿、報恩講を仏恩報謝の御仏事として勤めてこられたお姿が、私に「さあ、念仏申せ!!」と呼びかけている。

高山別院列座
高山2組秋聲寺 森 恒河



★センター・別院からのお知らせ★

高山別院報恩講—11月1日~3日 参詣の呼びかけをお願いします

2023年度	11月1日(水)	2日(木)	3日(金)
11/1	18:00	18:00	18:00
11/2	18:00	18:00	18:00
11/3	18:00	18:00	18:00

主催会場/真宗大谷派 高山別院 お問い合わせ 0577-32-0688

飛騨御坊報恩講
特別企画 響讚 御伝鈔
2023年11月1日~3日(水~金)
本坊六時より
高山別院本堂
念仏を唱へてお参りください

真宗公開講座—別院報恩講中に第1回を開催

- 11月 1日(水) 19:00~ 真宗同朋会主催
説法漫才「もっとお寺を身近に 和顔愛語」 えしんりょう(中村亮氏・土井恵信氏)
- 12月 4日(月) 14:00~ 真宗同朋会主催
「帰敬式 仏弟子になること」 相馬 豊氏(金沢教区道因寺・修練道場長)
- 1月 24日(水) 14:00~ 真宗同朋会主催
「水平社発祥の地に生まれて」 清原隆宣氏(本願寺派西光寺)
- 2月 18日(日) 14:00~ 大谷専修学院同窓会主催
「念仏する法蔵」 狐野秀存氏(専修学院前学院長)
- 3月 7日(木) 14:00~ 同朋大学同窓会主催
「往生をねがうしるし」 市野智行氏(同朋大学准教授)
- 4月 3日(水) 15:00~ 高山1組真宗の会主催
「誰のためのお墓なのか」 海 法龍氏(東京教区長願寺)
- 5月 12日(日) 14:00~ 高山1組真宗の会主催
「佐奈姫さまとお念仏」 三島多聞氏(別院輪番)

第42回ひだご坊 真宗公開講座
高山別院 500円
11/1 「もっとお寺を身近に 和顔愛語」
12/4 「帰敬式 仏弟子になること」
1/24 「水平社発祥の地に生まれて」
2/18 「念仏する法蔵」
3/7 「往生をねがうしるし」
4/3 「誰のためのお墓なのか」
5/12 「佐奈姫さまとお念仏」

本山報恩講団体参拝の実施(帰敬式受式者を中心に)

来る11月26日(日)、帰敬式推進室主催による、本山(東本願寺)報恩講の団体参拝を計画しています。近年、別院報恩講での帰敬式受式者を中心に募集いたしますが、受式者に限らず参拝希望の方はお申し込みいただけます。

宗祖親鸞聖人のお膝元に出向き、無二の勤行の中に身を据え、法縁に会う機会となれば深甚です。ご興味のある方は高山教務支所までお問い合わせください。

寺族交流会座談会「同朋唱和の回復に向けて」①

育成部会

去る8月1日、育成部会主催により寺族交流会が久々に開催され、「同朋唱和の回復に向けて」をテーマに座談会が持たれました。センター第二期を迎え、三本柱の一つ同朋唱和推進について、高山地区全体で考えていく糸口になることを願い、今月号から、同会の抄録(要旨)を掲載いたします。

なお、第1回目の今回は、座談会の冒頭で行われた窪田純氏(育成部会幹事)の問題提起を掲載いたします。

問題提起 窪田 純氏 (育成部会幹事)

■同朋唱和のルーツ(歩み)

同朋唱和のルーツについてですが、1923年、立教開宗700年の法要の時に、本山でご門徒さんと僧侶と一緒に「正信偈」をお勤めするという取り組みがなされたという記録があります。「派内門信徒にして声明に心得ある者に限り毎日法要過一定の時刻柵内に於て正信偈回向文唱和差許さる」と当時の告示にあります。定められた法要の後の時間に、堂衆が外陣で調声人となり、参拝席で僧侶やご門徒さんが一緒に「正信偈、回向文」を唱和したということが、今行われている同朋唱和の原点になろうかと思えます。

ただ、この時に初めて同朋唱和の願いが湧き起こってきたのかというところではなく、さかのぼると、1440年室町時代、蓮如上人ご在世の時、同朋唱和を視野においた取り組みがなされてきたのではないかと思います。『山科御坊事并其時代事』に、「昔は六時礼讃を朝暮の勤行なり、讃念仏は近年の事也。蓮如上人卅はかりの御歳よりと聞こえ申候」とあります。「讃念仏」、これは「正信偈」と「御和讃」のことですね。蓮如上人が30歳くらいの時(1440年ぐらい)、「正信偈」と「和讃」を平生のお

勤めとしたということですね。それ以前は、「六時礼讃」という善導大師が書かれたお聖教を読誦することが主だったそうです。この時、「正信偈」で勤めることがきっちり確かめられたということは、大きな転換であったと思います。

また、蓮如上人は「正信偈、念仏讃」を真宗門徒の平生のお勤めとして定めるにあたり、比叡山に同朋を遣わせて天台宗のお勤めを学ばせ、「正信偈」に節を付けられました。私たちが考える以上に大変な苦勞をされて、正信偈を真宗門徒のお勤めとして広めてくださったのだと思います。同朋唱和という言葉は使われませんでしたけれども、ご門徒さんも僧侶も共に一緒のお勤めをしていきたいという願いは、蓮如上人の時に出来てきたのではないかと思います。

■同朋唱和とともに、「南無阿弥陀仏」と口に称えていこう

さらに遡りまして1212年、これは親鸞聖人の師である法然上人が亡くなられた年です。法然上人の御命日は1月25日です。「聖人の廿五日の御念仏も、(中略)念仏しらんひとをたすかれとおぼしめして、念仏しあわせたまうべくそうろう」(『御消息集』)。このようなお手紙を親鸞聖人が残されておられます。法然上人の御命日を機縁として開かれる法会です。これは、お互いにお念仏をするために御命日に集まるのだということ、親鸞聖人が押さえられているのではないかと思います。

「正信偈」は「帰命無量寿如来」という調声の声に対して、その場にいる人たちが皆が「南無不可思議光」と続いていく勤行作法になります。本日午前中に飛騨学場にてお話いただいた藤場先生は、「帰命無量寿如来」も「南無不可思議光」も両方とも「南無阿弥陀仏」と同じ意味だと言われます。「帰命無

量寿如来」とだれかが発声する「南無阿弥陀仏」の声を聞いて、その場に同席する者たち皆が揃って「南無不可思議光」と「南無阿弥陀仏」を返していく。「正信偈」という勤行を通じて、お互いに念仏してほしいという親鸞聖人の意志が、本人が意識するしないに関わらず適っていくという構成になっているのではないかと思います。

私は、「正信偈」のお勤めの場合、お互いに念仏していただくような集まりにしなければならないということを思っています。お通夜のお話させていただいた後、皆さんにご本尊に向かって「南無阿弥陀仏」と声に出してお通夜を締めくくりましょうと申し上げて念仏するのですが、一緒に「南無阿弥陀仏」と声に出してくれる人はほとんどおられません。同朋唱和ということと併せて、「南無阿弥陀仏」と口に称えていけるようなことも私たち僧侶が推進していかなくてはならないのではないかと思います。

■僧侶もご門徒さんと一緒にお念仏の歌を歌っていく

また、これまで同朋唱和の練習では、ご門徒さんは一生懸命練習されるけど僧侶は会場にいないとか、後ろの方で声を出さずに聞いているとか、そのような姿も散見されたようです。お互いに念仏していくという大きな願いからすると、僧侶もご門徒さんと一緒にお念仏の歌を歌っていくというのが、一つ大きな役割としてあるのではないかと思います。これは再確認しなければなりません。また、大人数でなければ同朋唱和にならないかといえばそうではないはずなので、一人ひとりと向き合いながら同朋唱和ということの大切さを確かめていかなければならないのではないかと思います。

※ 次回からは座談内容を掲載いたします。

<お知らせ>10月25~26日は、東海連区教務所員研修のため、教務支所は事務休止となります。

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』10月

三島 多聞氏 (高山別院輪番)
井野 了慧氏 (高山教務支所書記)



WEB 一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

高山支部坊守会研修会

日時：10月4日(水) 13:30~
会場：高山別院会館2階研修室
講師：帰雲真智氏(帰敬式推進室長)
内容：帰敬式について

声明儀式作法研修会(育成部会)

日時：10月6日(金) 19:00~21:00
会場：別院本堂(受付：御坊会館)
講師：松田 憶氏(本山堂衆)
内容：出退作法・出仕者作法 他

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年10月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	日			
2	月			
3	火	13:00	別 三日のご坊 法話:北條秀樹氏(了泉寺住職)	本堂
4	水	13:30	教 坊守会高山支部研修会	研修室
5	木	7:00	別 半日華 七 書道展締め切り	
6	金	13:30 13:30 18:00	七 高山地区解放推進協議会 輪読学習会① 教 正副座長懇談会 七 声明儀式作法研修会(育成部会主催)	センター室 本堂
7	土			
8	日			
9	月			
10	火	13:00	教 坊守会岐阜支部「真宗女性の集い」	
11	水	13:00 13:30	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番) 七 青少幼年部会	御坊会館
12	木	9:00 13:30	七 書道展審査 教 真宗同朋会執行部・支部長会	御坊会館 研修室
13	金	7:00 14:30 18:00	別 前住上人ご命日 七 帰敬式推進室 組 高山2組組会・儀式作法研修会	本堂 研修室
14	土			
15	日	7:00	別 半日華	

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
16	月	15:00	別 院議会議臨時会	御坊会館
17	火	13:30	組 高山2組坊守会	研修室
18	水	15:30	教 伝道部会・真宗同朋会会議	研修室
19	木	13:30 14:00	七 書道展展示作業 教 開頭部会・育成部会代表者会議	
20	金	12:00	七 帰敬式事前研修会①	本堂
21	土	13:00	七 書道展作品展張り出し(~11/5)	
22	日	13:00	七 帰敬式事前研修会②	本堂
23	月	13:30 19:00	組 れんげの会 教 教化研究所	研修室
24	火			本堂
25	水		教 東海連区教務所員研修 (~26日)	
26	木	8:30	別 高山2組門徒会 清掃作業	
27	金	9:00 13:00	別 吉城組・婦人会 清掃作業 別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	土	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:櫻居和彦氏(西光寺住職)	本堂
29	日	9:30	別 おみぎ	本堂
30	月	7:00	別 一日華・華束盛 組 高山1組末代会	
31	火	13:00	別 報恩講準備	

2023年11月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1~3			別 報恩講	5	木		七 帰敬式申込 センター締切